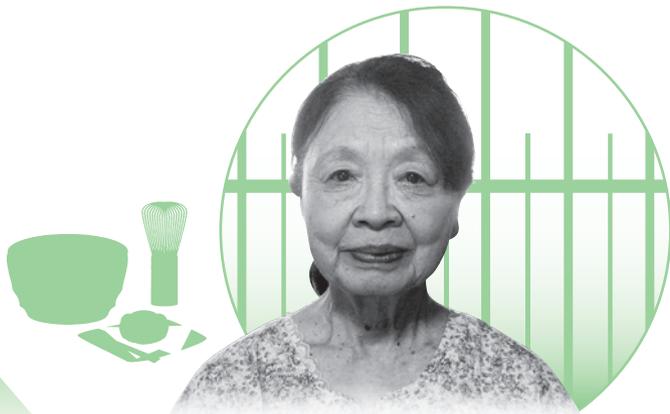


こうほう ショッキング

Vol.77

Kōhō shocking



こじま ともこ
小島 智子 さん

●プロフィール

80歳。福岡県福岡市生まれ。太平洋戦争の際、福岡大空襲を経験。縁あって鰐浦在住だったご主人と結婚、対馬へ。若い世代が日本の伝統文化に接するきっかけをと昭和58年より上対馬高等学校茶道部の講師を引き受ける。地元の幼児にもお点前の機会を与えるほか、地域活動にも尽力。平成22年、学校茶道連絡協議会より功労賞受賞。茶名は宗智。

○今年には戦後70年に当たります。小島さんの戦争体験を少しお伺いできますか？

家族で西新という地区に住んでおりました。西新小学校に通っておりましたが、終戦の1年ほど前だったでしょうか、ご近所数軒で飯盛（現在の福岡市西区飯盛）に疎開いたしました。今も流鏑馬神事などが行われる飯盛神社がありますが、山の中でしてね、そこにあつたお文殊様での生活が学校代わりでした。学年ごとはいきませんから、複式の授業でした。

○終戦前の6月、福岡市街地を標的とした福岡大空襲が起りました。

アメリカ軍の爆撃機がたくさん飛んできました。敵機の襲来を受けて地上から高射砲が発射されましたけれど、全く当たらないんです。悠々と敵機が飛んで行きました。当時10歳くらいでしたが、不思議と恐怖心はなかったのを覚えています。

○深夜から始まった焼夷弾投下で千人以上が死亡または行方不明となりました。

お友達の中には亡くなったり、

大やけどを負ったり、あれ以来会えなくなつた人もいます。みんな散り散りになってしまつて、どうしているかしらと思いつつ、日が月に、月が年になって過ぎていってしまいました。

○ご家族に被害は？

福岡の大惨事の中、疎開していた私たち家族は無事でした。戦後は父の実家のあつた早良地区に引越しました。4人の子どもの教育は、もつぱら母がしていました。とても厳しくて、スパルタ式の教育でしたねえ。地区の婦人会長を務めるくらいの人でしたから、人から何か言われるとスツと引き受けて行動する人でした。そんな母の影響は少なからず受け継いでいるように思いますね。

○長い間茶道の指導に当たつていらつしやいますが、伝えたいことは？

茶道の精神を貫く、とても言いましょか。難しく思われるかもしれませんが、おもてなしの心を持ち、一度きりの出会いを大切に。互いに楽しもうという心、他を敬愛する心、清

らかでシンプルに。向かい合う人と人から始まつて、国と国との繋がりに大切なことと思います。

○お茶席で大切に思つていらつしやることは？

無心になる、ということでしょうか。一服の茶を点てる、その中に凝縮される精神。茶碗一点に集中し、それを分かち飲む。精神を分かち合う、ただ無心に。そういうことだと思います。

○地域の文化活動に大変ご尽力いただいています。

もうそろそろ新旧交代の時代だと思いますよ。海外へも目を向けられる広い視野を持つことはお茶の精神にも結び付くものだと思います。お茶碗の中に点えられる一服のお茶、その一点がより広い世界へ広がっていくことを期待したいです。

毎回、登場してくださった方に次の方をご紹介いただくこのコーナー。次回は厳原町今屋敷にお住まいの國分英俊さん、愛子さん夫妻です。お楽しみに。